

建設業の原点に立って

はじめに、このたびの東日本大震災で亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

皆さまの生活が安定するまでには、いましばらく時間を要するものと思いますが、一日でも早く落ち着いた生活を取り戻せますよう心よりお祈り申し上げます。

東亜建設工業グループは、被災地の復旧・復興に全力で取り組んでまいります。

持続的成長の実現をめざして

2010年4月、当社は「中期経営計画（2010年度～2012年度）」をスタートさせました。

この計画では、経営目標に、「持続的成長の実現を目指して、技術力・組織力・個人の力を結集し、

収益基盤強化を図る」を掲げ、競争力・収益力のある強靱な経営体質を確立していきます。

この技術力・組織力・個人の力は、創業来、多くのお客さまとの関わりの中かで、長年にわたり培われてきた経験と実績に基づいた総合力です。

さらに、中期経営計画に掲げる事業目標の達成はもとより、社会貢献、環境保全に向けた取り組み、安全・安心に対する意識の醸成、コンプライアンスの徹底など、CSR活動の推進に努めていきます。

創業の精神に見られるCSRの理念

当社の創業者、浅野総一郎は1897（明治30）年4月、足かけ2年にわたる欧米外遊から戻り、あらためて日本の港湾の貧弱さを痛感しました。この時の思いが後に、起業家精神を呼び起こす起爆剤となります。浅野は、東京湾に大型船が着岸できる工業用地の造成という東京湾築港の構想を描きます。この構想はその後半世紀以上を経て実現する京浜工業地帯を遠望した雄大なものでした。

ポンプ船第一号船
（後の潮田丸）



この構想は壮大ゆえに、幾度となく壁にぶつかります。しかし、このブレのない強い思いはやがて、浅野の良き理解者であった安田善次郎、渋沢栄一の支援を受け実現します。

1908(明治41)年、鶴見川の河口に広がる海面約150万坪の埋立事業計画を神奈川県庁に提出しました。これが、当社の創業です。

明治の一起業家が、日本の将来に思いを馳せ、近代的な港湾をつくるために奮闘し、その第一歩を踏み出しました。

この創業の精神こそ、当社のCSR(企業の社会的責任)の原点であり、経営理念として、今日まで脈々と受け継がれています。

建設業者としての社会的責任を果たす

東日本大震災の発生後、建設業者もさまざまなかたちで、被災地の復旧・復興に関わっています。防災・減災への取り組みが今まで以上にクローズアップされ、官民間わず、さまざまな場で新たな街づく

りの議論がされています。

当社は、これまでモノづくりに携わってきた一方で、常に自然との共生・共存というテーマと向き合ってきました。自然は時に恵みをもたらし、時に猛威をふるいます。

私たちはこの先も、自然を活かし、自然に活かされるという環境のなかで、生産活動を続けていきますが、社会基盤整備に携わるものとして、このテーマとあらためて向き合い、建設業者としての社会的責任を果たしていきます。

本報告書は、当社グループのCSRに関する活動実績をまとめたものです。

ご一読いただき、皆さまからの忌憚のないご意見を賜りますよう、お願い申し上げます。

代表取締役社長

松尾正臣